

国際セーフコミュニティ認証センター  
セーフコミュニティネットワークメンバー

# 認証申請書

(補足説明書)



2018年6月  
福岡県久留米市



# 目 次

## 第1章 久留米市の概要

- 1 地勢 ..... P1
- 2 産業・教育・文化・医療体制 ..... P3

## 第2章 死亡やけが・事故などの状況

- 1 外的要因による死亡に関する状況 ..... P7
- 2 外的要因による受傷に関する状況 ..... P8
- 3 交通事故に関する状況 ..... P10
- 4 子どものけがに関する状況 ..... P12
- 5 高齢者のけがに関する状況 ..... P13
- 6 犯罪に関する状況 ..... P13
- 7 虐待・DVに関する状況 ..... P15
- 8 自殺に関する状況 ..... P17
- 9 災害に関する状況 ..... P18
- 10 労働災害に関する状況 ..... P18
- ◆ 重点テーマの設定 ..... P19

## 第3章 7つの指標に基づいた取り組み

### 指標1：分野を越えた連携・協働を推進する組織

- 1 セーフコミュニティ推進協議会 ..... P20
- 2 セーフコミュニティ対策委員会 ..... P21
- 3 外傷等動向調査委員会 ..... P21
- 4 セーフコミュニティ推進庁内組織 ..... P22
- 5 その他 ..... P22

### 指標2：全ての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動

- 1 セーフティプロモーションの全体像 ..... P23
- 2 主な予防活動 ..... P24

### 指標3：ハイリスクのグループや環境に焦点を当てた予防活動

- 1 ハイリスクグループ ..... P31
- 2 ハイリスク環境 ..... P32

#### 指標 4：入手及び活用可能な根拠に基づいたプログラム

地域診断による重点テーマの設定	P33
(1) 交通安全対策委員会	P35
(2) 児童虐待防止対策委員会	P44
(3) 学校安全対策委員会	P50
(4) 高齢者の安全対策委員会	P65
(5) 防犯対策委員会	P73
(6) DV防止対策委員会	P83
(7) 自殺予防対策委員会	P92
(8) 防災対策委員会	P101

#### 指標 5：外傷や事故の頻度と原因を継続的に記録する仕組み

1 外傷サーベイランスの全体像	P109
2 外傷サーベイランスを構成するデータ及び継続的なデータ収集の計画	P109

#### 指標 6：予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組み

1 セーフティプログラムの進行管理	P111
2 外傷等動向調査委員会の開催状況	P112
3 外傷等動向調査委員会の主な活動	P112
4 重点テーマごとの評価指標	P114

#### 指標 7：国内・国際的なネットワークへの継続的な参加

1 国内ネットワークへの参加	P115
2 国際ネットワークへの参加	P116

### 第4章 これまでの取り組みの成果

1 各分野における成果	P119
2 事前指導後の新たな取り組み	P122

### 第5章 セーフコミュニティ活動の長期展望

1 今後のセーフコミュニティ推進に向けた方針	P124
2 基本計画への位置づけ	P125

# 第1章 久留米市の概要

久留米市は、九州の北部、福岡県南西部に位置し、九州一の大川筑後川と東西に連なる耳納連山に育まれ、美しい自然と温暖な気候に恵まれた緑豊かなまちです。

筑後平野の肥沃な大地のもと、多種多様な農産物を生産する福岡県最大の農業生産都市であるとともに、古くから交通の要衝にあることから産業においても栄えてきました。1889年には全国30市とともに日本で初めて市政を施行し、その後、数次の合併を経て、現在では人口30万人を擁する中核市へと成長を遂げ、県内では福岡市、北九州市に次ぐ人口第3位の都市として発展してきました。

2011年には九州新幹線が全線開通し、2016年には賑わいと求心力を象徴する文化・交流のランドマークとして久留米シティプラザがオープンするなど、これを契機に市内外から訪れる多くの人々にまちの魅力を発信するため、音楽や美術、食などをテーマにした様々なイベントを開催しています。

今後も、久留米市が持つ自然と歴史、文化・芸術や公共交通、高度医療など豊富な地域資源を活かし、さらなる発展を目指しているまちです。



## 1 地勢

- (1) 人口 : 306,461人 (出典: 住民基本台帳 2018年1月1日現在)
- (2) 面積 : 229.96k m<sup>2</sup> [東西 32.27 km、南北 15.99km]
- (3) 海拔 : 11.15m
- (4) 東経 : 130度30分29秒
- (5) 北緯 : 33度19分09秒 (出典: 2016年版久留米市統計書)

※福岡県の人口: 5,106,133人 1位: 福岡市 1,553,778人 (30.4%)  
2位: 北九州市 956,243人 (18.7%)  
3位: 久留米市 306,796人 (6.0%) 2016年10月1日時点

久留米市の人口の推移を見ると、全国的な傾向と同様に、65歳以上の高齢者人口が増加する一方、0歳から14歳また15歳から64歳の人口が減少する中で、全体的にはほぼ一定の人口を保持しています。その理由として、ここ近年は、出生と死亡による自然移動の減少を、転入による社会移動の増加が上回っていることが挙げられます。【図表1】【図表2】

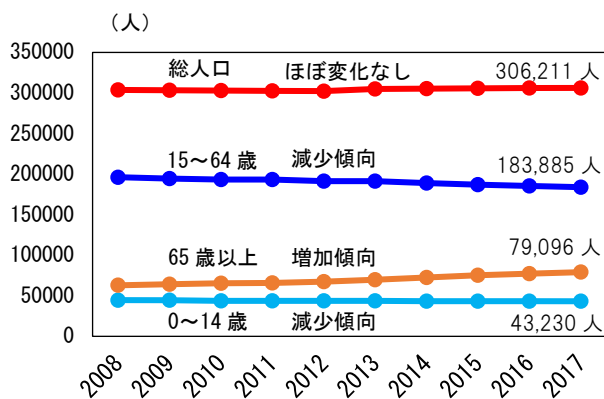
人口構成を比較すると、久留米市の年少人口の割合は、全国、福岡県の平均と比べて若干高く、生産年齢人口と老年人口の割合は低くなっています。

また、久留米市に在住する外国人の割合は、総人口の 0.7% を占め、その国籍は主にフィリピンや中国などのアジア系が多くなっています。【図表 3】

世帯総数を見ると、親・子・孫の 3 世代以上から成るファミリー世帯が減少する一方で、単独世帯や核家族世帯、高齢単身世帯の増加により、世帯総数は増加しています。【図表 4】

また、核家族化が進むにつれ、自治会の加入率は減少している状況です。【図表 5】

図表 1 年齢層別人口の推移



出典：住民基本台帳（4月1日時点）

※2012年より住民基本台帳に外国人住民数を含む

図表 2 人口動態の推移

出典：住民基本台帳

	出生	死亡	自然増加	転入	転出	社会増加	人口増減
2008	2,969	2,699	270	21,126	22,368	▲1,242	▲972
2009	2,852	2,696	156	21,427	22,082	▲655	▲499
2010	2,984	2,855	129	21,279	21,632	▲353	▲224
2011	2,911	2,981	▲70	21,103	21,196	▲93	▲163
2012	2,911	2,967	▲56	28,795	26,226	2,569	2,513
2013	2,953	2,986	▲33	27,645	27,333	312	279
2014	2,911	3,011	▲100	27,076	26,457	619	519
2015	2,971	3,097	▲126	27,978	27,325	653	527
2016	2,806	3,184	▲378	26,898	26,420	478	100
2017	2,791	3,138	▲347	27,056	27,048	8	▲339

図表 3 年齢層別人口構成比の比較

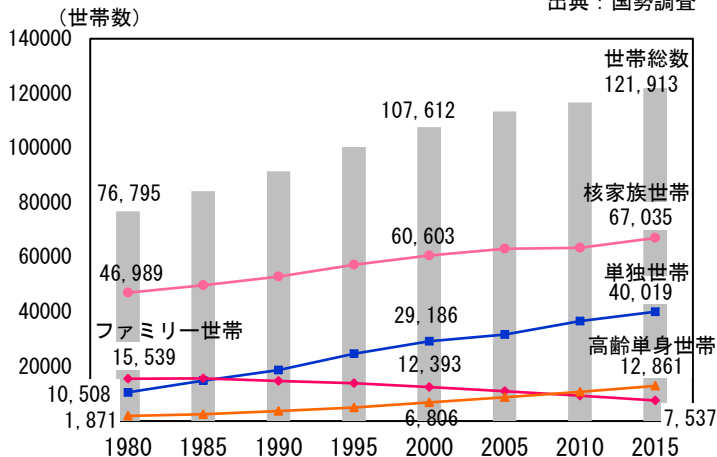
出典：2015年国勢調査

		年少人口(0~14歳)	生産年齢人口(15~64歳)	老年人口(65歳以上)	年齢不詳	うち外国人	総数
久留米市	人口(人)	41,133	179,398	76,256	7,765	2,064	304,552
	構成比	13.5%	58.9%	25.0%	2.5%	(総人口比 0.7%)	
福岡県	人口(人)	676,045	3,057,855	1,304,764	62,892	47,097	5,101,556
	構成比	13.3%	59.9%	25.6%	1.2%	(総人口比 0.9%)	
全国	人口(人)	15,886,810	76,288,736	33,465,441	1,453,758	1,752,368	127,094,745
	構成比	12.5%	60.0%	26.3%	1.1%	(総人口比 1.4%)	

※市内に在住する外国人の国籍 1位:フィリピン(659人)、2位:中国(535人)、3位:韓国(201人)、4位:ベトナム(157人)、5位:アメリカ(43人)

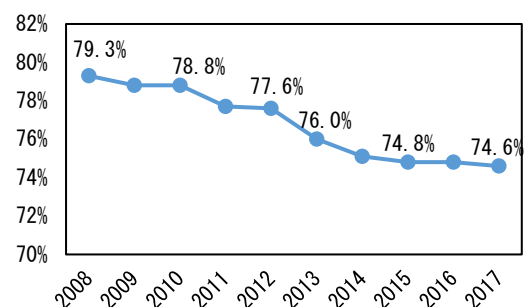
図表 4 世帯数・世帯構成の推移

出典：国勢調査



図表 5 自治会加入率

出典：久留米市地域コミュニティ課統計



※自治会とは、住民自ら地域を住みよい環境にするために、近所の 150 前後の世帯で構成し活動を行う住民組織のことです。

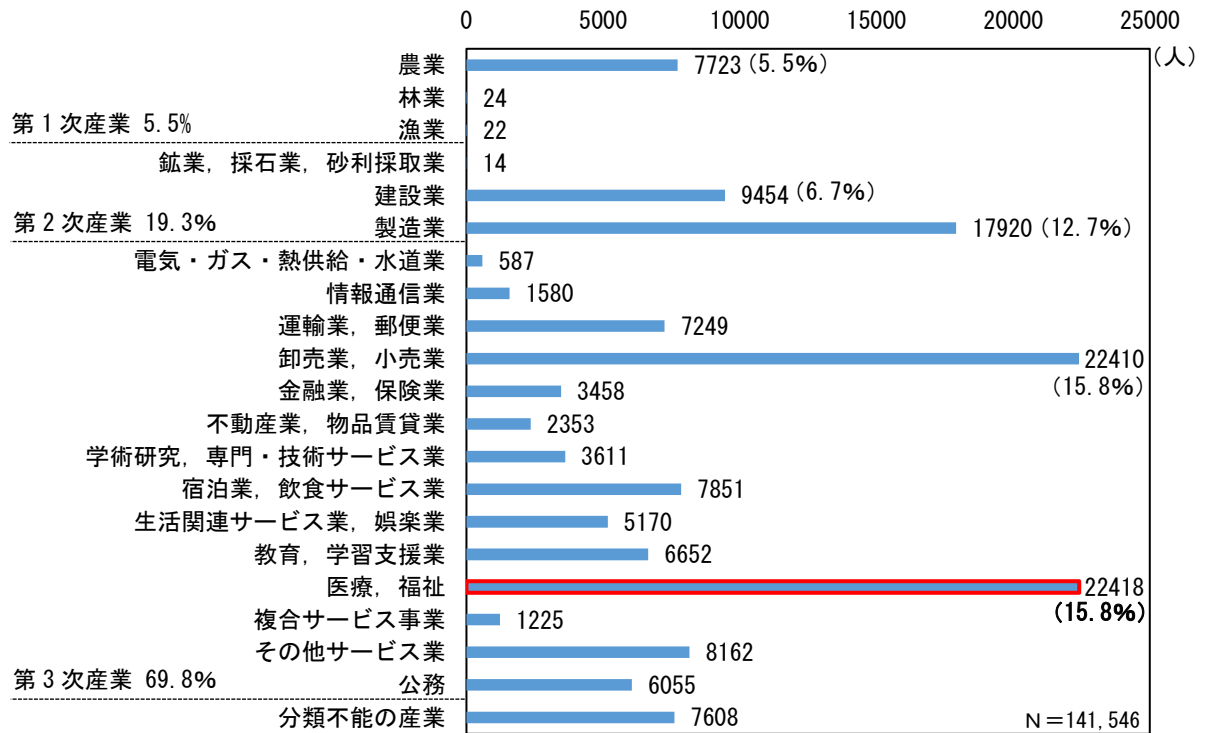
## 2 産業・教育・文化・医療体制

### ①産業

久留米市の産業別就業人口を見ると、第3次産業が全体の約70%を占め、特に医療・福祉分野においては、全国平均の11.9%に対し、本市は15.8%を占め「医療のまち久留米」としての一面を表しています。全体の20%近くを占める第2次産業では、製造業や建設業の割合が高くなっています。県内第1位の農業粗生産額を誇る本市ですが、第1次産業の従事者数は30年前の約半数まで減少し、現在は全体の5.5%となっています。【図表6】

図表6 産業別就業人口

出典：2015年国勢調査



自動車工業の礎を築いたゴム産業



県内1位の農業粗生産額を誇る農産物



久留米絨

※藍染めされた綿織物で、無形文化財に指定



日本3大酒どころである久留米の銘酒

## ②教育

久留米市内には、保育所 82 箇所、幼稚園 14 園、小学校 47 校、中学校 20 校、高等学校 12 校、特別支援学校 3 校、工業高等専門学校 1 校、短期大学 1 校、大学 3 校があります。【図表 7】【図表 8】

久留米市では、「久留米市教育改革プラン」を策定し、「夢に向かって学ぶくるめっ子」に向け教育改革を進めることにより、ふるさと久留米を愛し、ともに社会を生き抜く力を身につけた子どもの育成に取り組んでいます。

図表 7 学校の状況

出典：教育便覧（2017年5月1日現在）

区 分		園・校数	児童・生徒数	備 考
幼稚園	計	14	1,949	
	私立	14	1,949	
小学校	計	47	17,107	
	市立	46	16,688	
	国立	1	419	
中学校	計	20	8,587	
	市立	17	7,560	
	国立	1	358	福岡教育大学附属
	私立	2	669	久留米大学附設、久留米信愛女学院
高等学校	計	12	8,054	
	市立	2	1,425	久留米商業、南筑
	県立	5	3,203	明善、久留米、久留米筑水、三瀬、浮羽工業
	組合立	1	244	三井中央
	私立	4	3,182	久留米大学附設、久留米信愛女学院、祐誠、久留米学園
特別支援学校	計	3	334	
	市立	1	239	久留米特支
	県立	2	95	田主丸特支、久留米聴覚特支
工業高等専門学校	計	1	1,054	
	国立	1	1,054	久留米高専
短期大学	計	1	158	
	私立	1	158	久留米信愛女学院
大学	計	1	8,375	
	私立	1	8,375	久留米、久留米工業、聖マリア学院

図表 8 保育所・認定子ども園の状況

出典：久留米市子ども未来部統計（2017年4月1日現在）

区 分		施設数	園児数
保育所	計	67	8,059
	公立	9	1,050
	私立	58	7,009
認定子ども園	計	15	2,085
	私立	15	2,085
計	計	82	10,144

### ③文化

久留米市は、遠く古代には※1 筑後国府・国分寺が設置され、今日まで交通の要衝、文化の中心地として重要な地位を占め、江戸時代には※2 久留米藩が置かれました。こうした歴史的経過から、数々の文化財が残されています。【図表 9】

また、久留米市美術館には、日本の近代洋画を代表する青木繁、坂本繁二郎などの画家をはじめ、数多くの作品が展示されており文化の土壌豊かなまちです。

※1 7～9世紀にかけて、筑後国として国府（現在の役所）が設置され、当時その地域で最大級の建築物であった国分寺（寺院）が建てられていました。

※2 藩とは、大名（領主）によって統治され、一定の自立した政治・経済・社会の機能を持つ小さな国家のような組織のことです。

図表 9 久留米市の文化財

出典：久留米市市民文化部統計（2017年4月1日現在）（件）

	国指定	県指定	市指定	合計
有形文化財	20	22	46	88
無形文化財	1	1		2
無形民俗文化財	1	2	7	10
有形民族文化財		5	26	31
史跡	9	6	8	23
名勝			1	1
天然記念物	3	7	16	26
合計	34	43	104	181
登録文化財	5	0	0	5



### ④保健・医療体制

久留米市は「医療のまち」と呼ばれ、人口10万人当たりの医師数は、全国平均240.1人の倍以上にのぼる561.6人と全国トップクラスであるほか、九州で唯一の高度救命救急センターを持つ久留米大学病院や、周産期医療をはじめ、高度な医療や検査機能を有する病院・研究機関が集積するなど、充実した医療資源により県南地域の医療の中心を担う都市です。【図表 10】～【図表 14】

また、久留米市の救急搬送時間の平均時間は25.5分と、全国平均の39.3分を大きく上回り、全国の政令市・中核市の中で最も早い搬送時間となっています。【図表 15】

さらに、久留米市では、けがや病気の発症から、より短時間で医師による治療を可能とするため、2015年から「久留米市ドクターカー」の運行を開始しました。これにより、生存率の向上や後遺症の軽減といった成果につながっており、現在、生存率は、都道府県の中で最も高い福岡県の24.4%をさらに上回る28.6%となっております。【図表 16】

図表 10 医師、歯科医師、薬剤師数(人口10万人対)

出典：医師・歯科医師・薬剤師調査  
(2016年12月31日現在)

	医師	歯科医師	薬剤師
久留米市	561.6	95.8	245.9
福岡県	297.6	101.9	195.7
全国	240.1	80.0	181.3

図表 11 久留米市の医療従事者数

出典：久留米市保健所統計（2016年12月31日現在）

区分	医師	歯科医師	薬剤師	保健師	助産師	看護師	准看護師	歯科衛生士	歯科技工士
人数	1,815	305	868	131	140	4,974	1,380	446	101



図表 12 久留米市の医療施設数

出典：久留米市健康福祉部統計（2017年10月1日現在）

区分	病院	診療所	歯科診療所	助産所	施術所	歯科技工所	衛生検査所
施設数	34	314	195	5	271	64	4

図表 13 久留米市の病床数

出典：久留米市健康福祉部統計（2017年10月1日現在）

区分	病 院					診 療 所			合計
	一般病床	精神病床	感染症病床	療養病床	計	一般病床	療養病床	計	
病床数	3,637	1,532	14	1,552	6,735	678	72	750	7,485

図表 14 福岡県保健医療計画における承認・指定病院等

出典：福岡県保健医療計画

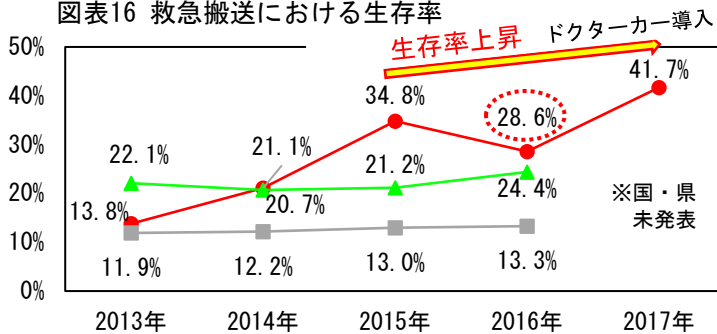
病院名	特定機能病院	救急救命センター	周産期母子医療センター	災害拠点病院	地域医療支援病院	がん診療連携拠点病院
久留米大学病院	○	○ (高度)	○ (総合)	○		○
聖マリア病院		○	○ (総合)	○	○	○
新古賀病院					○	

図表 15 救急搬送時間（単位：分）

出展：総務省消防庁「2017年版救急・救助の現況」

	久留米市	福岡県	全国
2013年	25.0（他未発表）	29.9	39.3
2014年	24.8（全国1位）	30.1	39.4
2015年	25.2（全国1位）	30.2	39.4
2016年	25.5（全国1位）	30.7	39.3

図表16 救急搬送における生存率



出典：総務省消防庁「2017年版救急・救助の現況」

- 久留米広域消防本部（久留米市）
- ▲ 福岡県
- 全国

※生存率とは、一般市民が目撃し、救急搬送された心原性心肺機能停止傷病者のうち、1ヵ月後に生存している傷病者の割合のことです。



※「ドクターカー」…救急搬送時に医師が同行し、病气やけがの発症から短時間で医師の治療が受けられることから、生存率や後遺症の軽減につながります。

（2015年から試行し、2017年の出動件数は、全件数13,755件中308件の2.2%を占める）

## 第2章 死亡やけが・事故などの状況

### 1 外的要因による死亡に関する状況

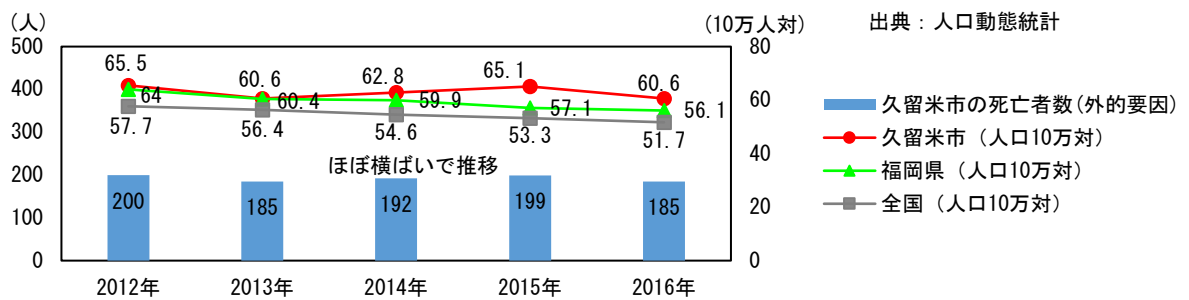
#### 死亡者数の推移と死亡原因

久留米市内における2012年から2016年までの5年間の死亡者数は15,227人であり、そのうち外的要因による死亡者数は961人で、全体の6.3%を占めます。

人口10万人当たりの久留米市の外的要因による死亡者数は、ほぼ横ばいで推移しており、全国や福岡県の平均を上回っています。

また、外的要因による死亡原因では、10歳～69歳までの年齢層で「自殺」が最も多く、若い年代では「交通事故」、高齢者では「溺死」「窒息」「転倒」などが多い傾向がみられます。

図表17 外的要因による死亡者数及び人口10万人当たりの死亡者数の割合



図表18 年齢層別外的要因による死亡原因

出典：人口動態統計（2012～2016年までの5年間） (人)

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	交通事故 溺死・溺水 各1	—	—	—	—
10～19歳	自殺 4	交通事故 窒息 各2	転倒・転落 1	—	—
20～29歳	自殺 26	交通事故 転倒・転落 各1	—	—	—
30～39歳	自殺 38	交通事故 7	転倒・転落 煙・火 各2	溺死・溺水、窒息 中毒、その他不慮の事故 各1	—
40～49歳	自殺 46	交通事故 5	その他不慮の事故 4	窒息 3	転倒・転落 2
50～59歳	自殺 59	窒息 11	交通事故 9	転倒・転落 7	溺死・溺水 その他不慮の事故 各6
60～69歳	自殺 49	溺死・溺水 24	窒息 17	交通事故 転倒・転落 各11	その他不慮の事故 8
70～79歳	溺死・溺水 48	自殺 42	窒息 37	交通事故 15	転倒・転落 14
80～89歳	溺死・溺水 87	窒息 53	転倒・転落 その他不慮の事故 各38	自殺 21	交通事故 7
90歳～	転倒・転落 30	窒息 23	溺死・溺水 18	その他不慮の事故 12	自殺 交通事故 各3
合計	自殺 288	溺死・溺水 185	窒息 147	転倒・転落 106	その他不慮の事故 79

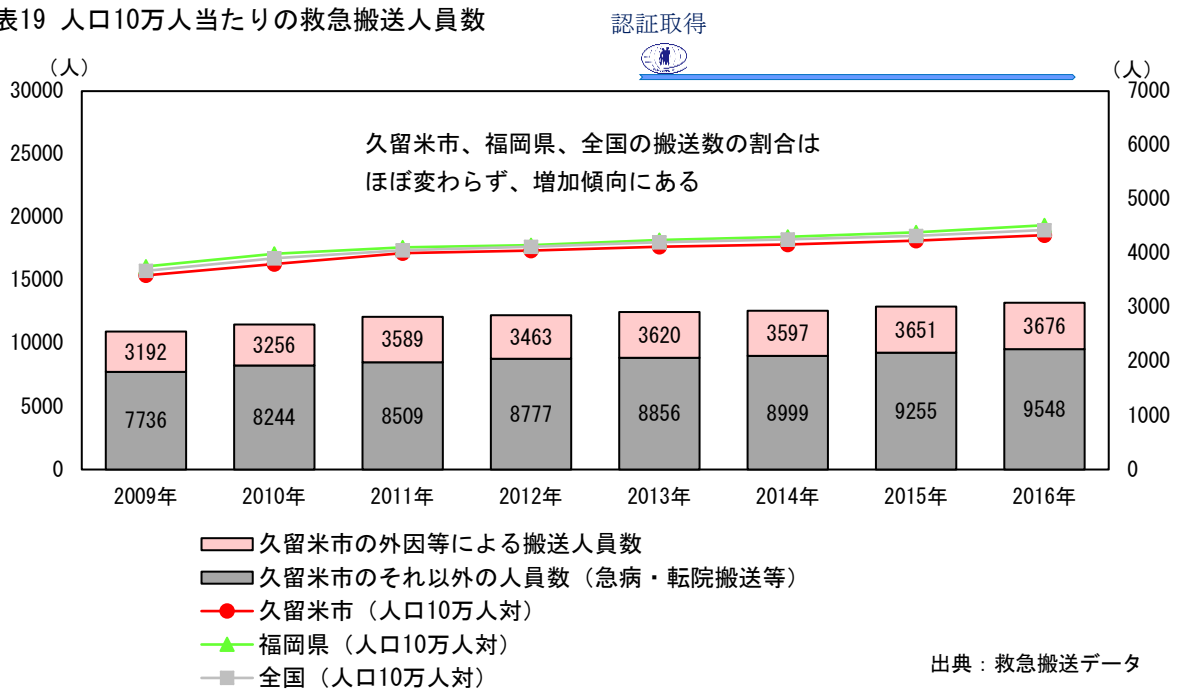
## 2 外的要因による受傷に関する状況

### ①救急搬送数の推移

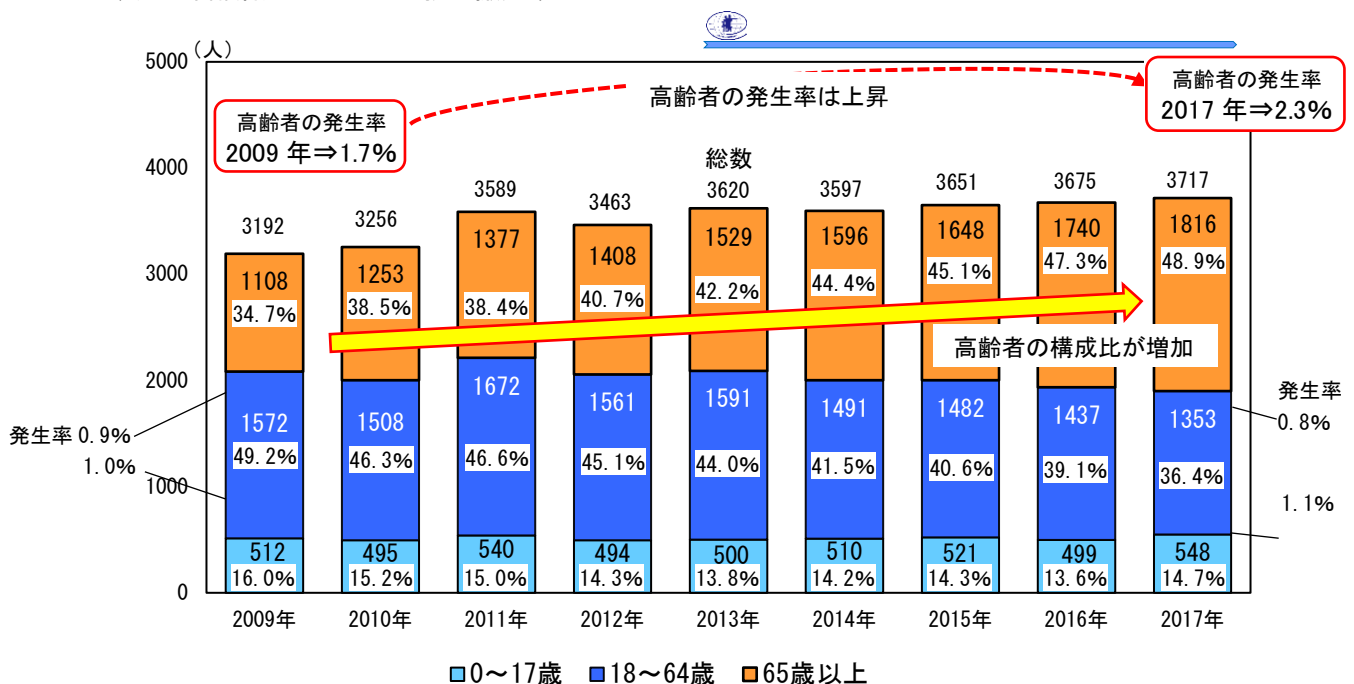
2016年に久留米市内で救急搬送された人は、全体で13,224人にのぼり、そのうち、けがや事故などの外因により搬送された人は3,676人で全体の27.8%を占めます。人口10万人当たりの搬送人員数は、全国や福岡県の平均と比較してほぼ変わらず、増加の傾向にあります。

年齢層別に見ると、0～17歳と18～64歳の搬送数が減少する一方で、高齢者人口の増加に伴い、65歳以上の搬送数が伸びており、また発生率においても65歳以上では、2009年の1.7%から2017年の2.3%に上昇しています。

図表19 人口10万人当たりの救急搬送人員数



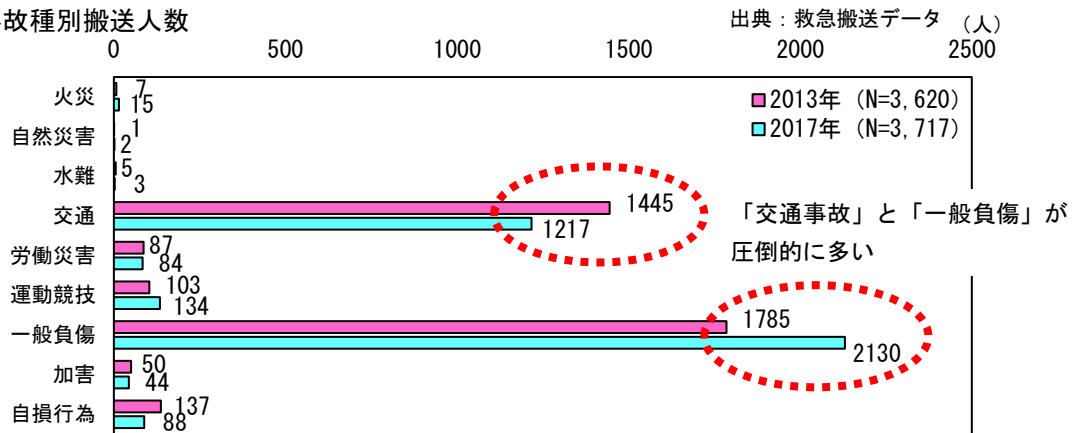
図表20 年齢層別外因による救急搬送数



## ②事故種別ごとの搬送人数

事故種別を見ると、認証取得した2013年と同様に、現在も「交通事故」と「一般負傷」が圧倒的に多くなっています。

図表21 事故種別搬送人数



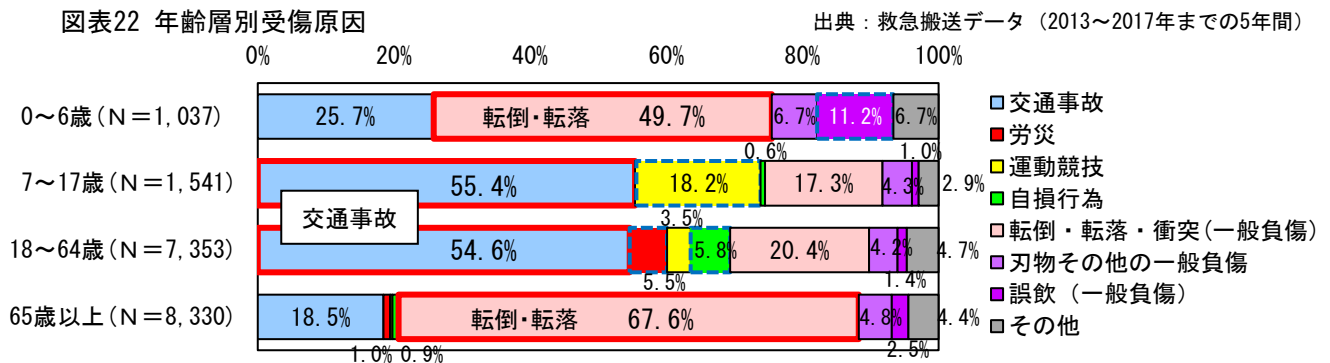
※「一般負傷」・・・表中にある「火災」「自然災害」「水害」「交通事故」などの種別に分類されない不慮の事故のこと。

## ③年齢層ごとの受傷原因

7～17歳と18～64歳では、「交通事故」の占める割合が50%以上と高くなっています。

また、0～6歳と65歳以上では、「転倒・転落」の占める割合が高く、特に65歳以上では、70%近くを占めています。さらに特徴として、0～6歳では「誤飲」、7～17歳では「運動中のけが」、18～64歳では「労働災害」や「自損行為」が他の年齢層と比較して高くなっています。

図表22 年齢層別受傷原因

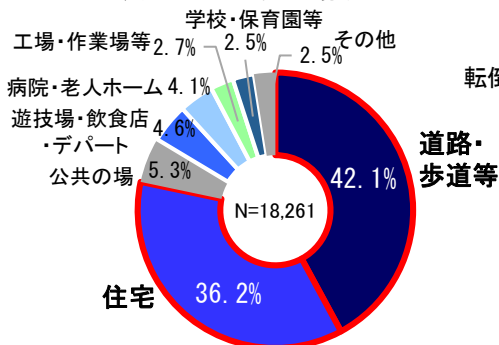


## ④けがの発生場所と場所別の受傷原因

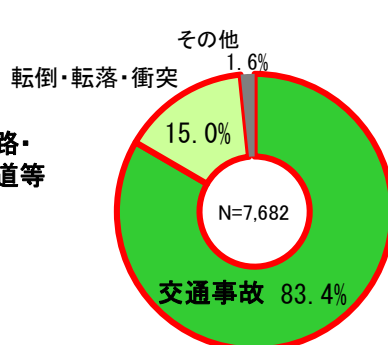
けがの発生場所は「道路・歩道等」と「住宅」で大半を占めています。

場所別の受傷原因では、道路・歩道等では「交通事故」が83.4%と最も多く、次に「転倒・転落」が15.0%となっています。住宅では「転倒・転落」が最も多く、70%以上を占めています。

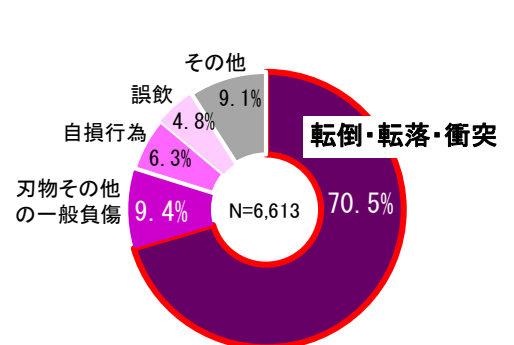
図表23 けがの発生場所



図表24 道路・歩道等での受傷原因



図表25 自宅での受傷原因

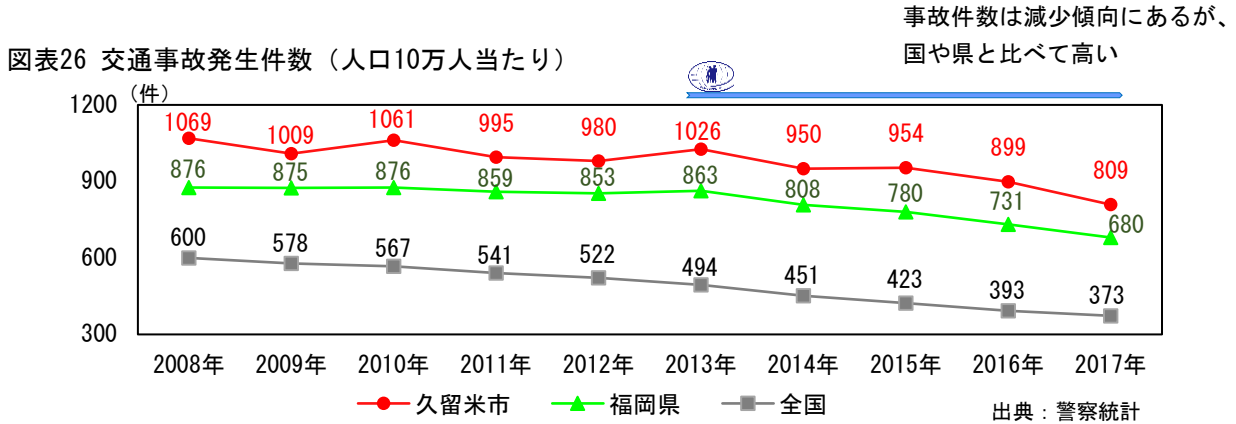


出典：救急搬送データ(2013～2017年までの5年間)

### 3 交通事故に関する状況

#### ①交通事故発生件数の推移

久留米市内の交通事故発生件数は、現在、年間2,500件前後で推移しており減少傾向にありますが、人口10万人当たりの件数で比較すると、全国や福岡県の平均よりも高くなっています。

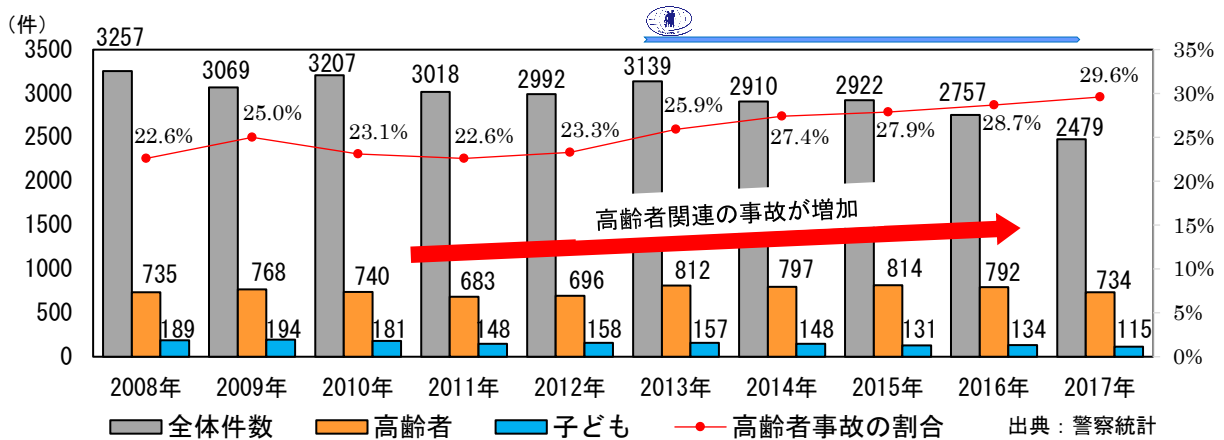


#### ②高齢者事故の占める割合と死者数の推移

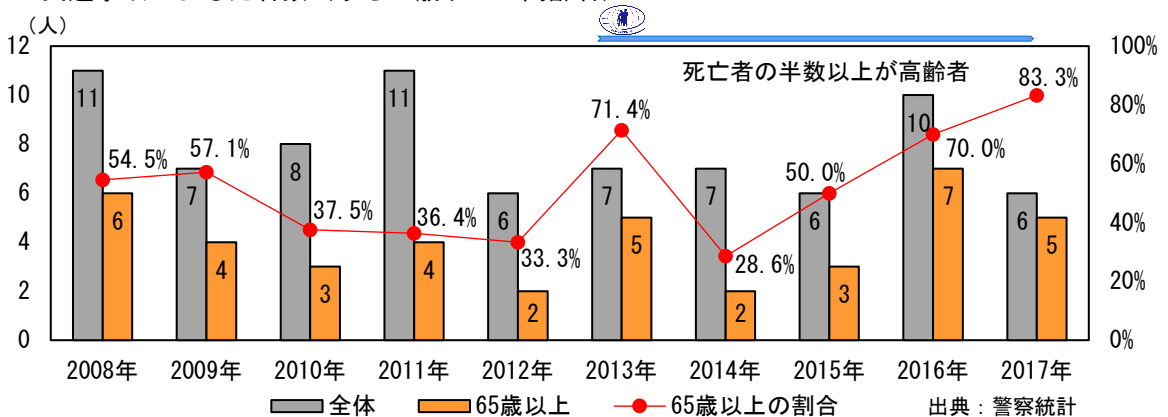
交通事故発生件数は減少する一方で、高齢者関連の事故は増加傾向にあり、全体の30%近くを占めています。

また、交通事故による死者の半数以上が高齢者となっています。

図表27 市内の交通事故発生件数と高齢者事故の占める割合



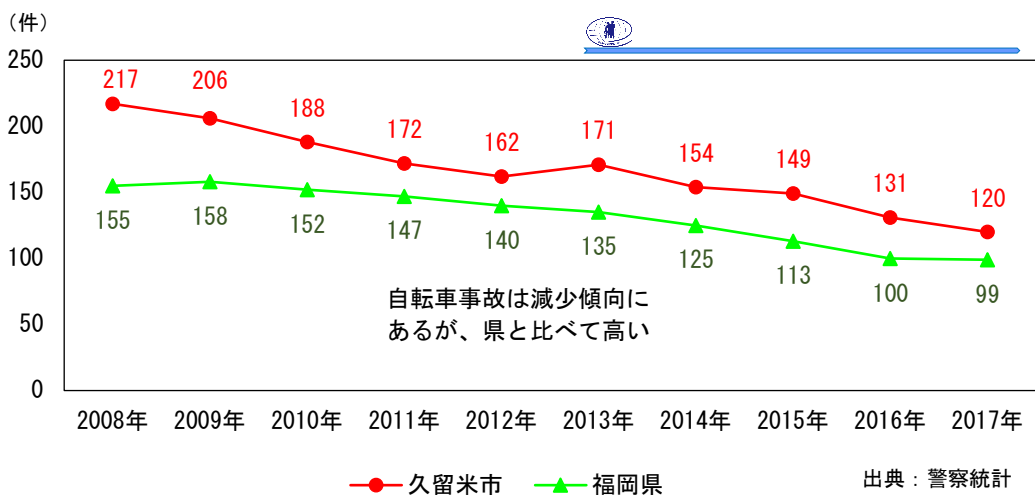
図表28 交通事故による死者数（うち65歳以上の高齢者）



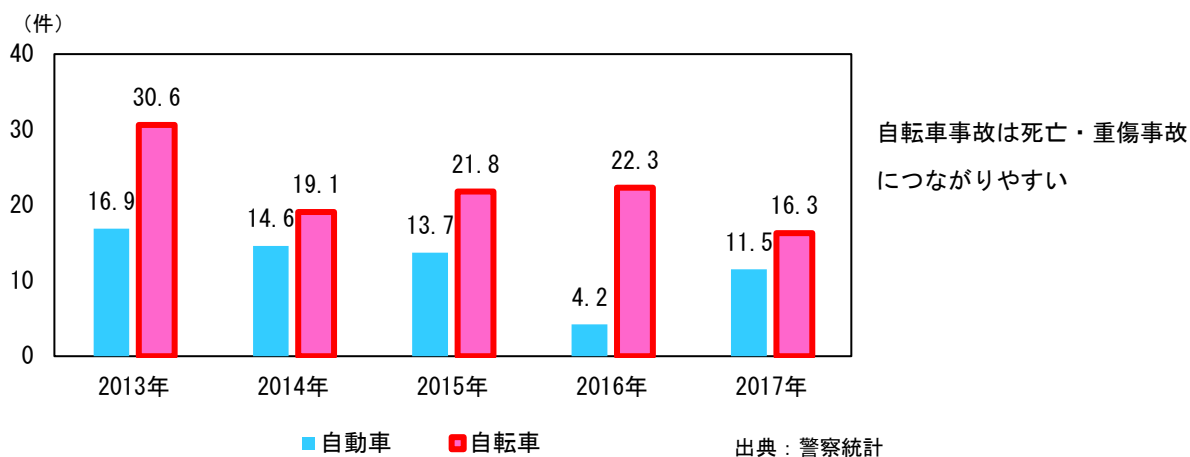
### ③自転車事故発生件数の推移

久留米市内の自転車事故発生件数は減少傾向にあるものの、福岡県の平均より高くなっています。また、死亡や重傷につながる交通事故は、自動車に比べ自転車のほうが高い状況にあります。

図表29 人口10万人当たりの自転車事故発生件数



図表30 自転車及び自動車による死亡または重傷事故件数の比較 (事故1,000件あたり)



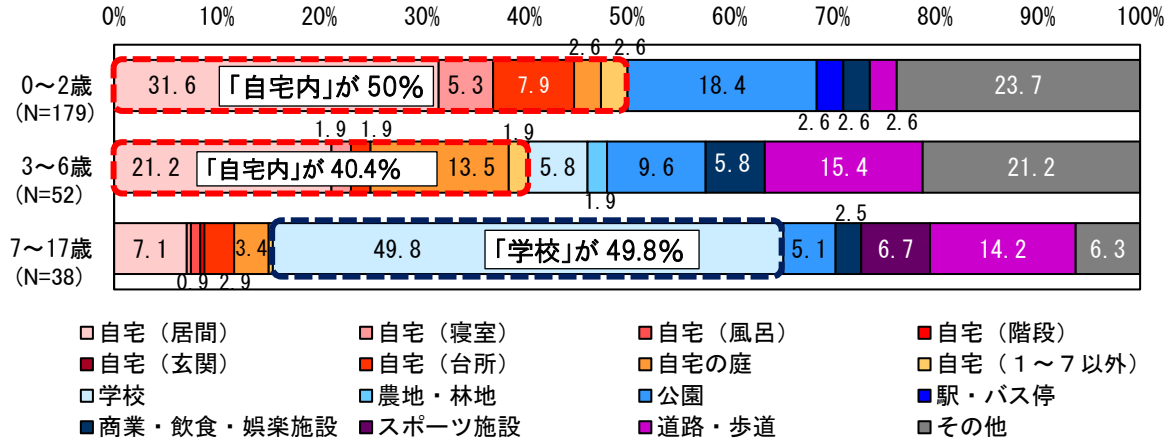
#### 4 子どものけがに関する状況

##### ①けがをした場所・原因・状況

0～2歳、3～6歳の子どもについては、主に自宅内で転倒するケースが多く、遊んでいるときにけがをしていることがわかります。7～17歳の子どもについては、主に学校で転倒するケースが多く、通学を含む教育活動や運動中にけがをしていることがわかります。

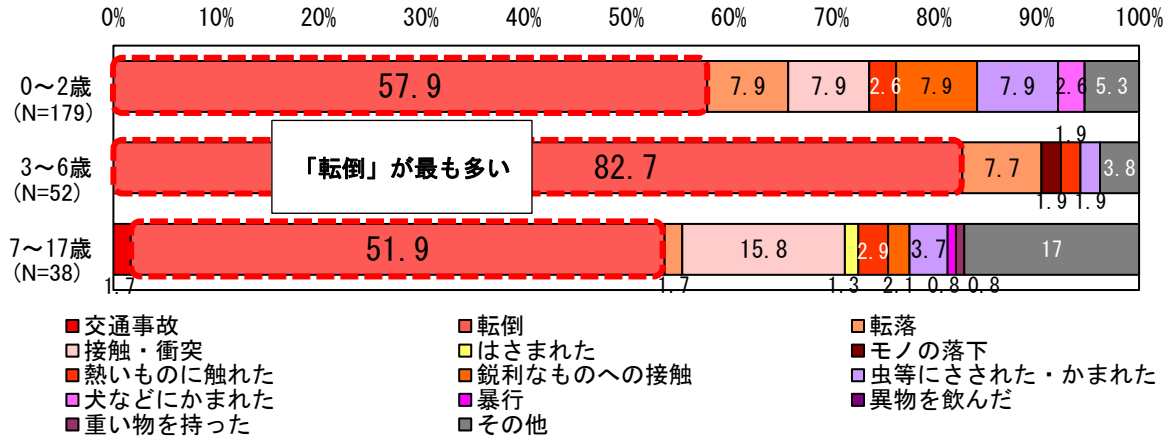
図表31 けがをした場所

出典：2017年久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査



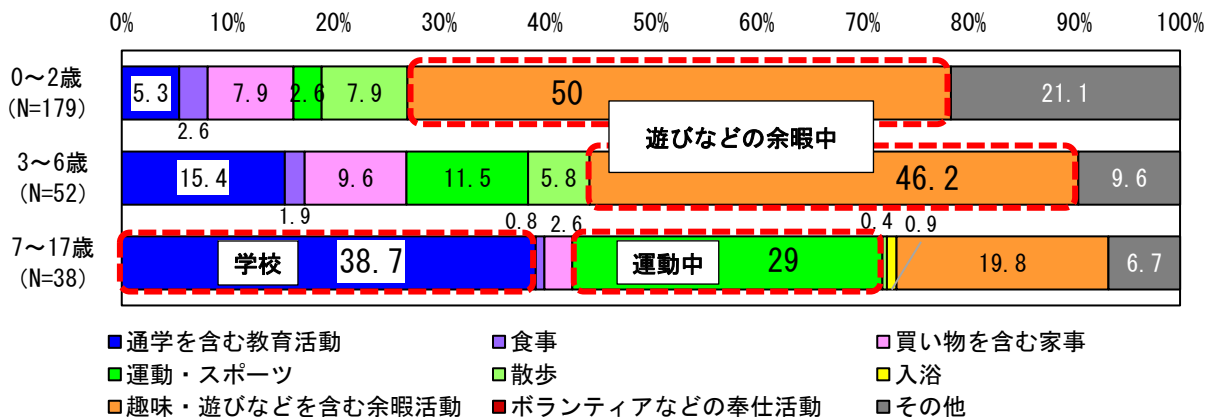
図表32 けがの原因

出典：2017年久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査



図表33 けがをしたときの状況

出典：2017年久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

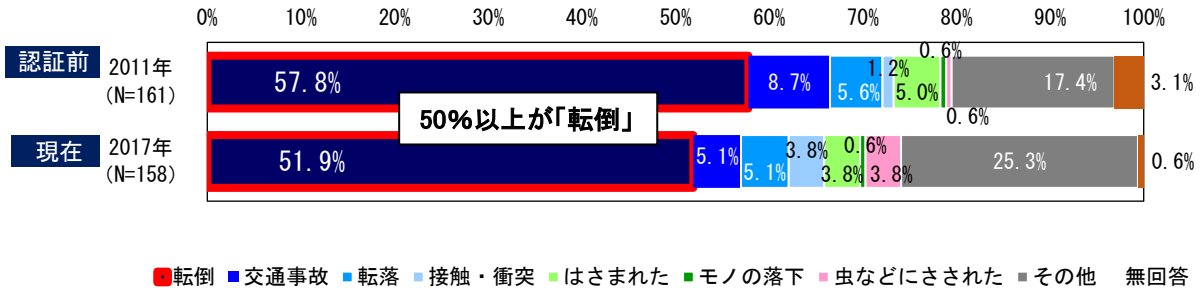


## 5 高齢者のけがに関する状況

### ①けがの原因・場所

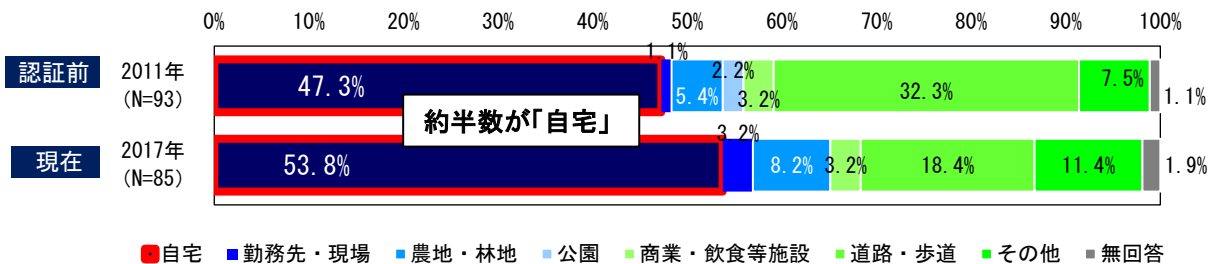
高齢者にけがの原因についてアンケートしたところ、50%以上が「転倒」であり、けがをした場所については約半数が「自宅」となっています。

図表34 高齢者のけがの原因



出典：久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

図表35 高齢者が転倒した場所



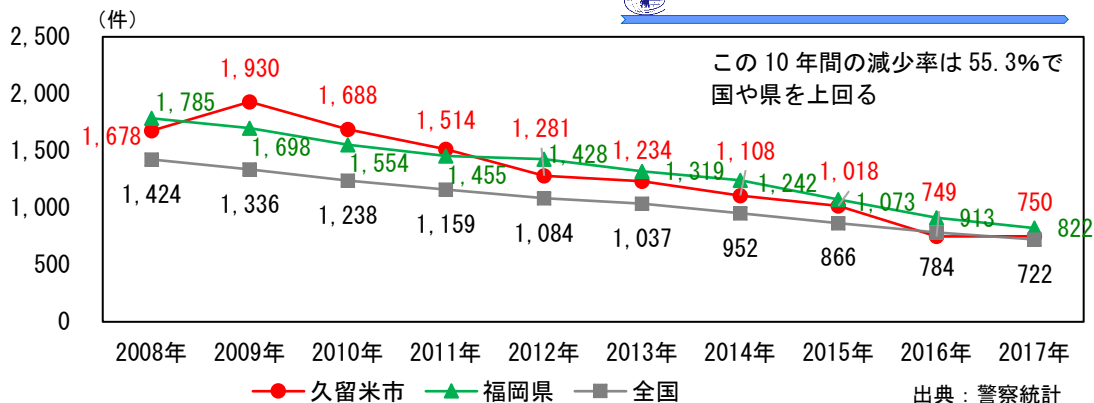
出典：久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

## 6 犯罪に関する状況

### ①犯罪の発生件数の推移

久留米市の犯罪の状況（一般刑法犯認知件数）を見ると、2017年は2,297件まで減少しており、この10年間の人口10万人当たりの件数で比較すると、全国平均の減少率49%や福岡県平均の減少率54%を上回る55.3%となっています。

図表36 一般刑法犯認知件数（人口10万人当たり）



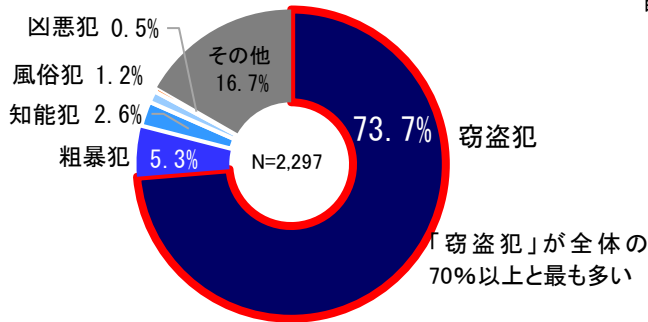
※「一般刑法犯」…刑法犯全体から自動車運転過失致死傷罪などの、交通事故によって人を死傷させた過失犯を除いたもの。



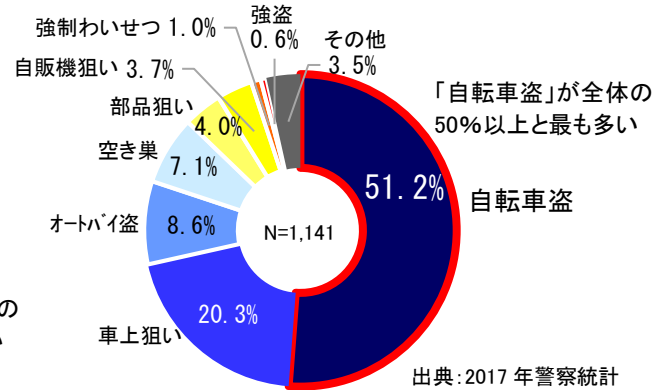
## ②犯罪の種類

犯罪の発生状況は、「窃盗犯」が全体の70%以上を占め、殺人などの凶悪犯は少ない状況です。身近で起きる街頭犯罪の内訳を見ると「自転車盗」が半数以上を占め、非常に多くなっています。

図表37 一般刑法犯の内訳

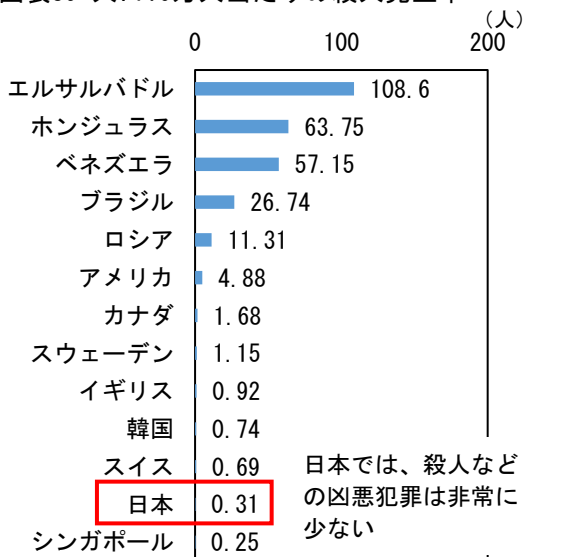


図表38 街頭犯罪の内訳



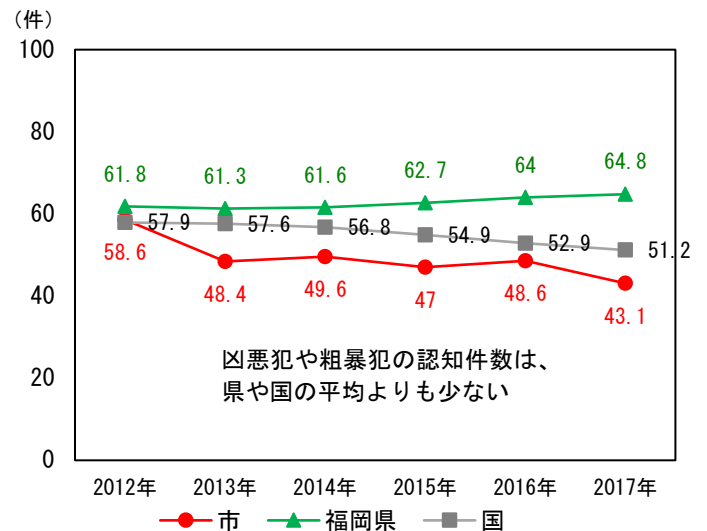
※「街頭犯罪」…一般刑法犯の中で、身のまわりで発生しやすい10の犯罪の総称。  
(自転車盗、オートバイ盗、自動車盗、侵入盗、車上狙い、部品狙い、自販機狙い、路上強盗、ひったくり、強制わいせつ)

図表39 人口10万人当たりの殺人発生率



出典：UNDOC（国連薬物犯罪事務所）※一部抜粋

図表40 人口10万人当たりの凶悪犯及び粗暴犯の認知件数

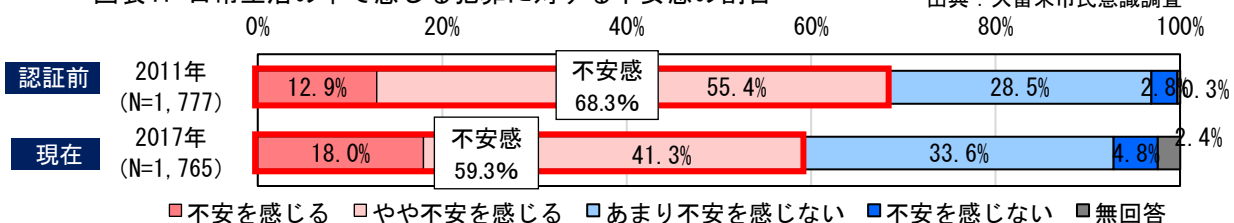


出典：警察統計

## ③犯罪に対する不安感

日常生活の中で、約60%前後の人が犯罪に対して不安を感じています。

図表41 日常生活の中で感じる犯罪に対する不安感の割合



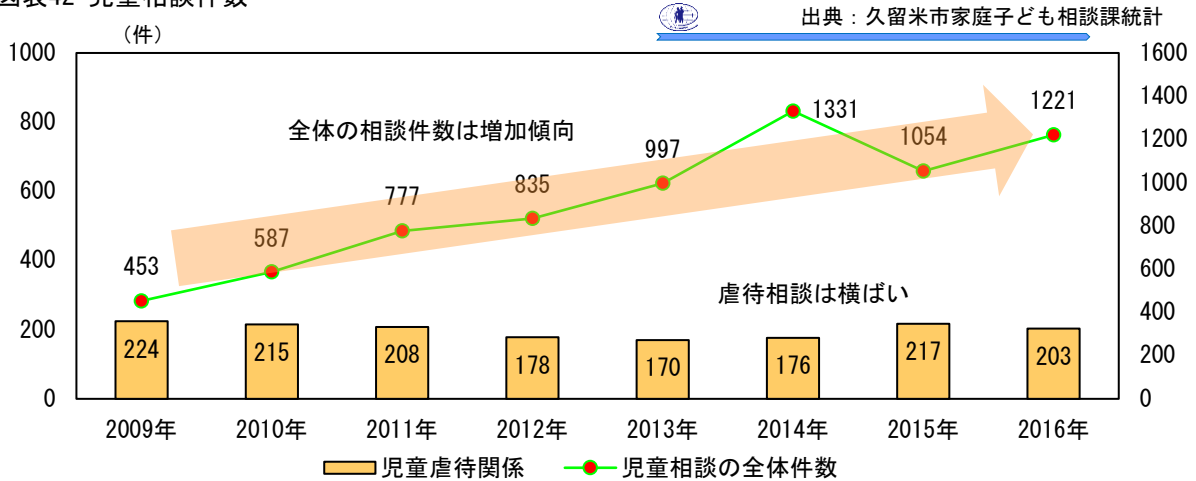
出典：久留米市民意識調査

## 7 虐待・DVに関する状況

### ①児童相談件数の推移

久留米市の児童相談件数は増加傾向にあり、その中で児童虐待に関する相談件数は、ほぼ横ばいの状況です。

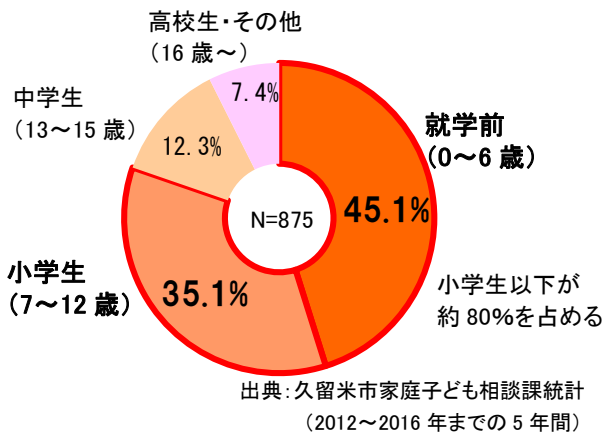
図表42 児童相談件数



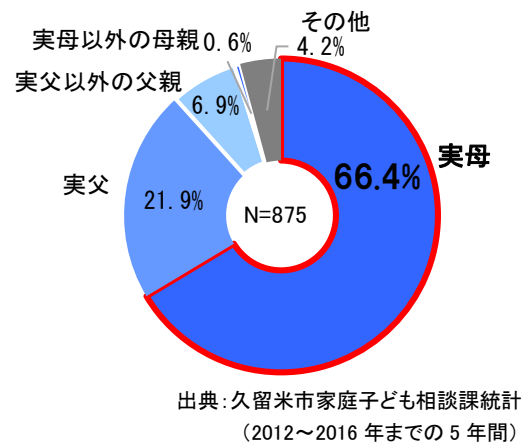
### ②児童虐待被害者の年齢構成、虐待加害者の状況、虐待の種類

虐待被害者の年齢構成は、0～6歳までの就学前の児童が全体の45.1%を占め最も多く、小学生と合わせると全体の80.2%を占めます。虐待加害者の状況は、実母が全体の66.4%を占めており、虐待の種類は、ネグレクトが最も多く、全体の53.9%を占めます。

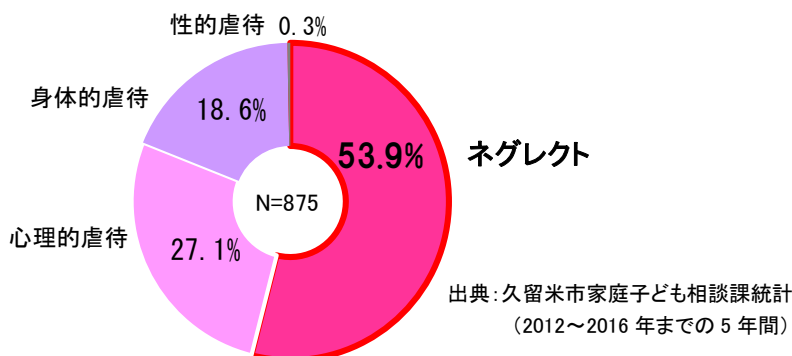
図表43 虐待被害者の年齢構成



図表44 虐待加害者の状況



図表45 虐待の種類別対応件数

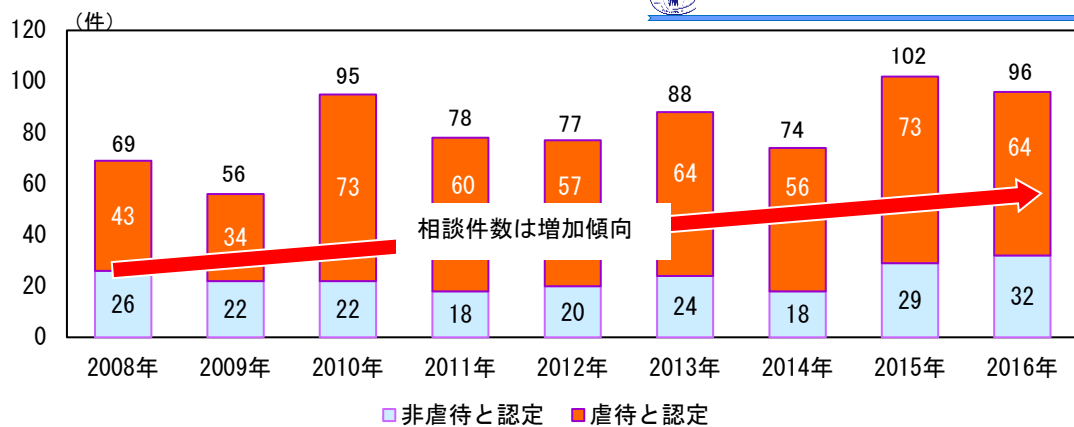


### ③高齢者虐待の相談・認定件数の推移

高齢者虐待の相談件数については、年によって増減はありますが増加の傾向にあります。

図表46 高齢者虐待に関する相談件数と認定件数

出典：久留米市長寿支援課統計

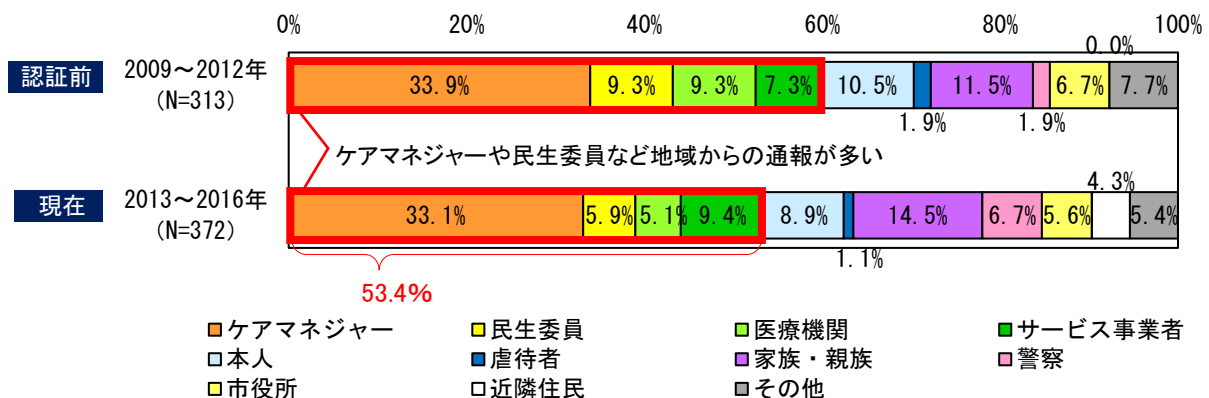


### ④経路別の相談・通報件数の割合

通報・相談経路を見ると、ケアマネジャーや民生委員など地域からの通報の割合が多く、近隣住民などからの通報は少ない状況です。

図表47 経路別虐待相談・通報件数の割合

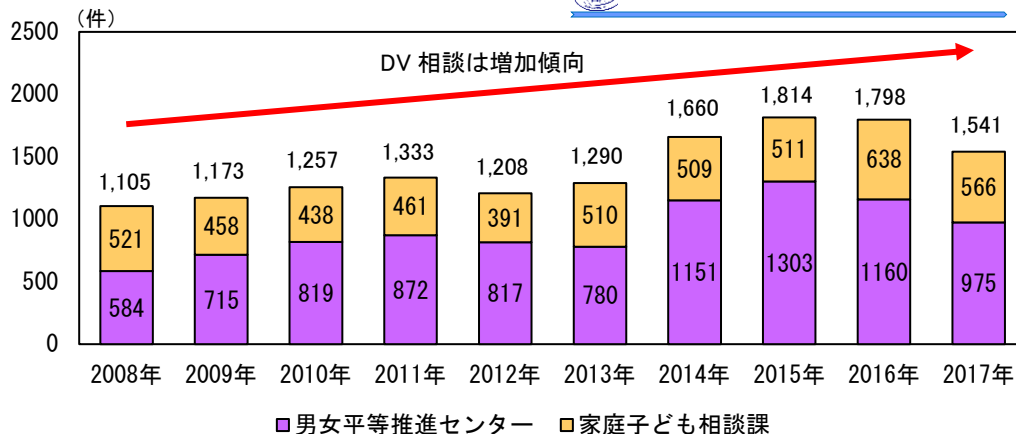
出典：久留米市長寿支援課統計



### ⑤DVに関する相談件数の推移

男女平等推進センター、家庭子ども相談課に寄せられるDVに関する相談件数は、増加傾向にあります。

図表48 DVの相談件数



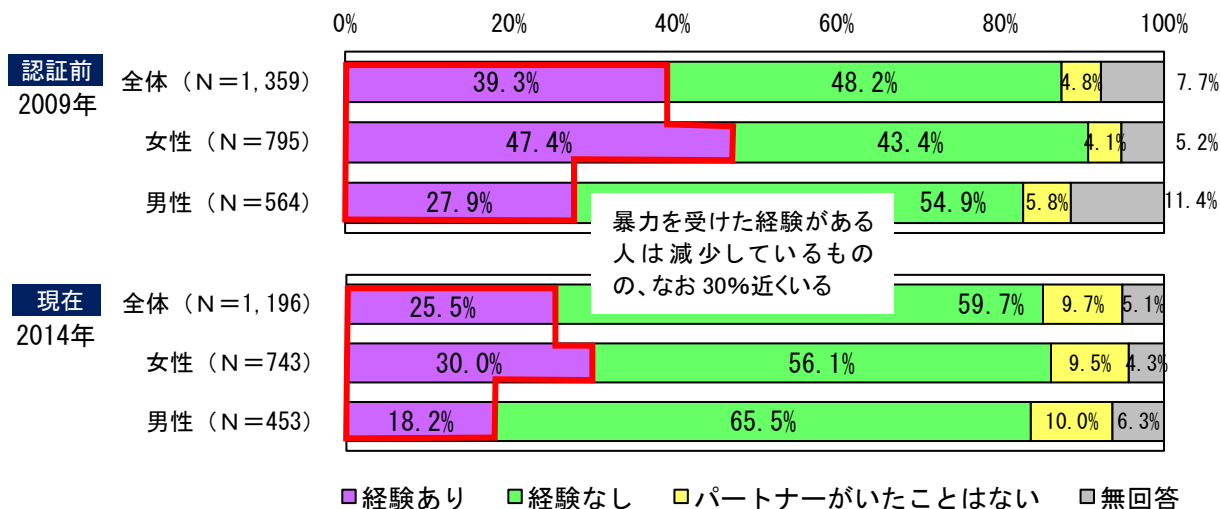
出典：久留米市男女平等推進センター、家庭子ども相談課統計

## ⑥DV経験の有無

パートナーから何らかの暴力を受けた経験があるかアンケートしたところ、2009年は女性47.4%、男性27.8%、全体では39.3%の人が「ある」と回答していますが、2014年は女性30.0%、男性18.2%、全体では25.5%と、全体を通して減少しています。

しかし、現在もなお、30%近くの人が、パートナーから何らかの暴力を受けた経験があると回答しています。

図表49 パートナーから何らかの暴力を受けた経験の有無



出典：久留米市男女平等に関する市民意識調査（5年毎）

## 8 自殺に関する状況

### 自殺者数の推移

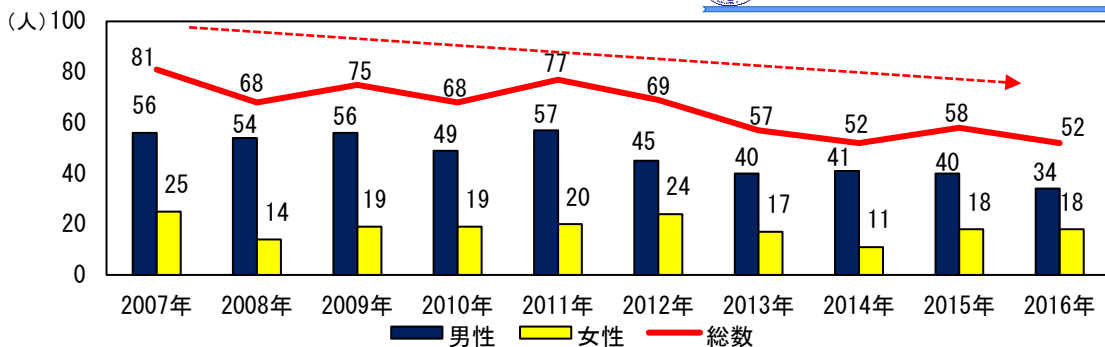
久留米市の自殺者数は、減少傾向にあります。自殺率では全国や福岡県の平均と比べて、やや高い状況にあります。

図表50 自殺者数の推移

出典：人口動態統計

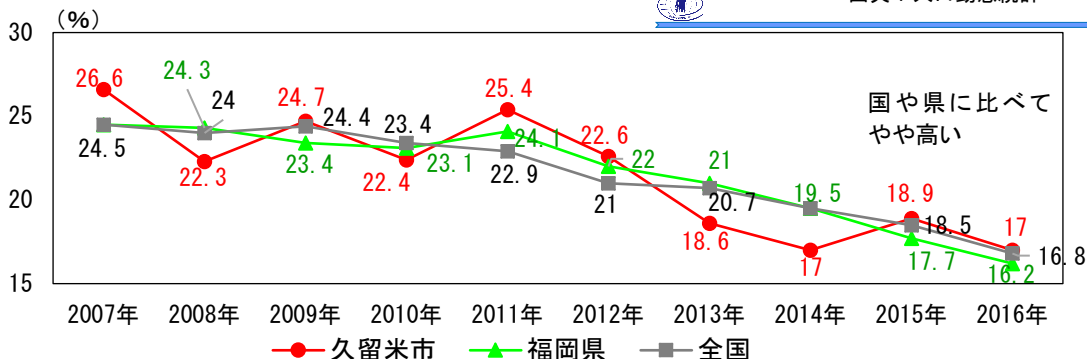


- ・自殺者数は減少傾向
- ・約70%が男性(認証後の平均)



図表51 人口10万人当たりの自殺率

出典：人口動態統計



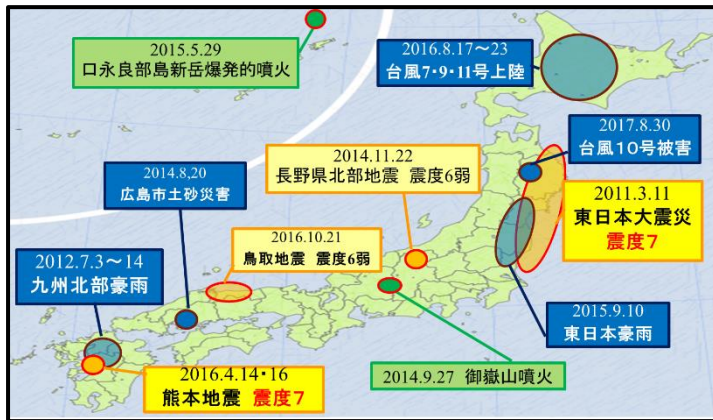
## 9 災害に関する状況

### 災害の発生状況

近年、地震や台風、集中豪雨など、自然災害が数多く発生しており、本市が位置する九州においても、複数の活断層の存在や台風の上陸といった災害リスクが挙げられます。

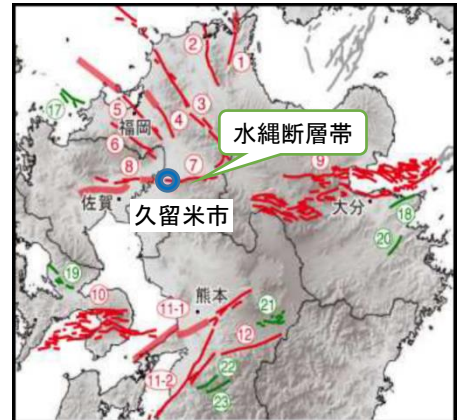
本市においても、1時間当たりの降水量の最大値が上昇傾向にあるなど、市民の自然災害に対する不安は高まっており、災害から身を守るためには、日頃から緊急時に備えた自助・共助の取り組みが求められています。

図表 52 日本で発生した主な自然災害（2011年～2017年）



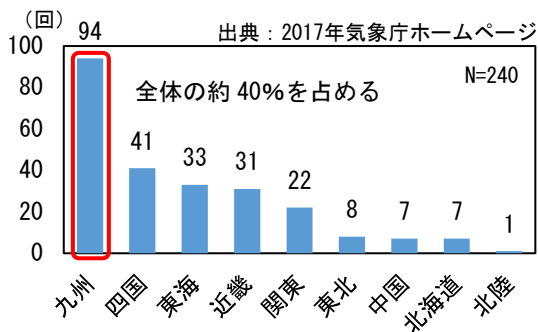
出典：久留米市防災対策課調べ

図表 53 九州北部の活断層

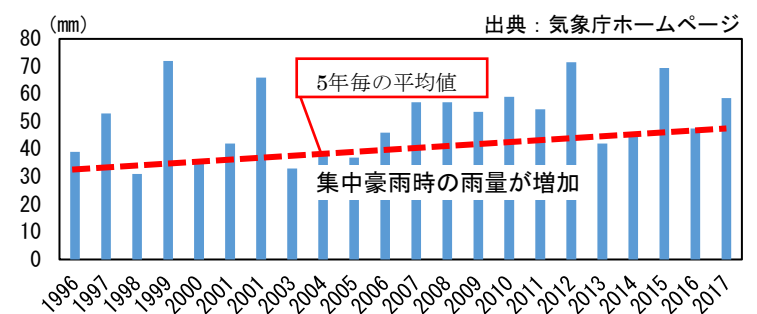


出典：地震調査研究推進本部

図表 54 日本への上陸台風発生数



図表 55 久留米市における1時間当たりの降水量の最大値

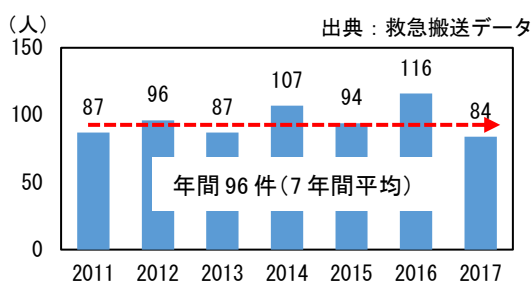


## 10 労働災害に関する状況

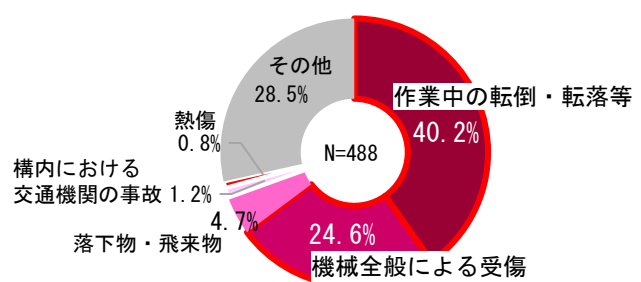
### 労働災害の件数と受傷形態

労働災害による救急搬送件数は、年により増減はあるものの、平均 90 件前後とほぼ横ばいで推移しており、救急搬送全体の 2.7% を占めています。また受傷形態では、「作業中の転倒・転落等」が最も多く全体の 40.2% を占め、次いで「機械全般による受傷」が 24.6% となっています。

図表 56 労働災害による救急搬送件数



図表 57 労働災害による受傷形態の内訳



## ◆ 重点テーマの設定

上記のとおり、久留米市では、人口動態統計や救急搬送データ、警察統計、アンケート調査等の各種データを活用して地域診断を行った結果、以下の重点分野・項目を設定して、けがや事故を予防するための取り組みを展開しています。

	設定した根拠	図表番号	重点分野	項目
①	「交通事故」は、若い年代で死亡原因の上位に挙げられている。	図表 18	交通安全	○高齢者の交通事故防止 ○自転車事故の防止
②	高齢者関連の事故が増加する中、交通事故による死亡者の半数以上が高齢者である	図表 27 図表 28		
③	市内の自転車事故件数は、県平均を上回っており、また自転車事故は重傷・死亡事故につながりやすい。	図表 29 図表 30		
④	児童虐待に関する相談件数は増加傾向にある。	図表 42	子どもの安全	○児童虐待の防止 ○学校の安全
⑤	児童虐待の被害者は、小学生以下が全体の約 80%を占める。	図表 43		
⑥	7～17 歳の子どものけがのうち、50%近くは「学校」で発生している。	図表 31		
⑦	救急搬送された人の約半数が高齢者であり、高齢者のけがの 50%以上は「転倒」によるものである。	図表 20 図表 34	高齢者の安全	○転倒予防 ○高齢者虐待の防止
⑧	高齢者虐待の相談・認定件数は増加傾向にある。	図表 46		
⑨	近隣住民などからの相談・通報は少なく、潜在化してしまう恐れがある。	図表 47		
⑩	他国に比べ、殺人や凶悪犯罪は少ないものの、「窃盗」などの身のまわりで発生しやすい「街頭犯罪」の割合が高く、市民の犯罪に対する不安は高い。	図表 37 図表 39 図表 41	犯罪・暴力の予防	○犯罪の防止・防犯力の向上 ○DV防止・早期発見
⑪	DVに関する相談件数は増加傾向にあり、パートナーから暴力を受けた経験がある人が 30%近くいる。	図表 48 図表 49		
⑫	幅広い年代で、「自殺」が死亡原因の 1 位に挙がる中で、自殺者数は減少傾向にあるものの、全国や県平均よりも高い。	図表 18 図表 50 図表 51	自殺予防	自殺・うつ病の予防
⑬	近年、各地で自然災害が発生しており、久留米市においても、地震や台風、集中豪雨等による被害が懸念されるなど、災害に対する不安が高まっている。	図表 52 図表 54 図表 55	防災	地域防災力の向上